

# 今月のことば

2013年 3月



「(キリストは)自分から十字架の上  
で、私たちの罪をその身に負われま  
した。それは、私たちが罪を離れ、  
義のために生きるためです。」

．．．．． 聖書

ペテロの手紙第一、2章24節

## いのちがけの愛

十字架のペンダントを襟元にのぞかせる女性を見かけます。あの方は十字架が何か  
をご存じだろうか。ご存知なら良いのに、と思わされることがよくあります。

十字架は古代ローマの恐ろしい死刑の道具です。十字に組んだ木材に罪人の両手両  
足を太い釘で固定します。支柱は地に立てられ、全体重が釘に貫かれた手足にかかり  
ます。その苦痛はどれほどでしょうか。耐えがたい苦痛と絶望に、気が狂って死んで  
行く者もいたとのこと。何と悲惨な死に方でしょうか。

イエス・キリストは何も悪いことはなさいませんでした。十字架にかけられて死  
なれました。聖書の4つの福音書はイエス・キリストのことばと行いを記しています。  
彼は身をもって神の愛ときよさと真実を現わし、多くの人をいやし、助け、導きまし  
た。虚飾と偽善に満ちた宗教家たちを糾弾しましたが、忍耐と誠実を忘れることはあ  
りませんでした。自分を裏切った弟子にさえ、最後の最後まで愛を示し、自分を十字  
架にかけた者たちのためにとりなし祈られました。「父よ。彼らをお赦してください。  
彼らは何をしているのか自分でわからないのです。」(ルカの福音書23章34節)

そのようなイエス・キリストの愛ときよさに貫かれた生き方に照らすと、私たちの  
日々の現実がいかに身勝手に醜く、人を傷つけ、自分を汚しているかが見えてきます。  
キリストはそのようなどうしようもない「私たちの罪をその身に負われ」て十字架で  
身代わりの死を遂げ、私たちに罪の赦しと新しい生涯をお与えくださいました。十字  
架は愛と希望のシンボルとなったのです。

みらい平キリスト教会はあなたのおいでを  
心からお待ちしています。